

未来を生きる子どもたちへのメッセージ ④7  
『天王川公園の歴史』

天王川公園がリフレッシュしたことをご存知ですか。藤の棚の整備に続き、噴水・遊具・ジョギングコース・屋根付きステージ・芝生広場・ガザニアガーデンと私たちにとって親しみやすい改修が続いています。皆さん一度天王川公園へ足をお運び下さい。

天王川は元々天王川という佐屋川から分かれた川でした。尾張の国のはずれ、伊勢の国につながる大きな湊町でした。天王川の堤防には多くの商家や旅館がならんでいたといえます。この堤防には津島神社の神官氷室長翁や近江商人塚本源三郎が桜並木を植栽しました。明治時代となり佐屋川が廃川となると天王川は丸池として残り、尾張津島天王祭の祭場となりました。大正時代には天王川公園の整備計画が進み、昭和10年からは動物舎が設けられ、鳥・鹿・ライオン・熊・ウサギ・モルモットが飼育されました。津島の子どもたちにとってお楽しみの盆踊り・プロレス・お化け屋敷・オートバイレース・国民体育大会（相撲）が行われました。今年の11月、56年ぶりにビンテージ・バイクによるパレードが行われました。その日は津島が昭和に戻った1日となりました。

今、津島市では日本語の学習が必要な外国人の児童生徒が増えています。54名の児童生徒が各学校で学習をしています。母国語がフィリピーノ18名、ポルトガル7名、ベトナム5名、タガログ6名、中国語5名、トルコ4名、英語4名、スペイン2名、ウルドゥ・ヒンドゥ各1名の内訳となっています。津島市ではフィリピンとベトナムから来た子どもたちが多いのが特徴となっています。学校での学習と合わせ、津島市国際交流協会と協力し、第一・第二の土曜日は南コミュニティセンターで、第三土曜日は神守中のちいき広場で日本語教室を開室しています。午前9時半から2時間の学習タイムとなっています。対象は小・中・高校生と保護者の方です。毎回7・8名の参加があります。一人ひとりの特性や事情を理解し、日本語や日本文化の習得をめざすダイバーシティー（多様性）の教室となっています。皆さん、日本語を学ぶお友達を応援して下さい。

ペン皿に小さき鉛筆秋思かな

令和6年2月2日  
津島市教育委員会  
教育長 浅井厚視